

北海道 札幌琴似工業高等学校

所在地 — 札幌市西区発寒13条11丁目

構造・規模 — RC造4階建 16,090m²

完成年月日 — 平成11年12月20日

基本計画 — (株)日本工房

建築実施設計 — 日本工房・道建築総合・道教育施設 JV

設備実施設計 — 協和・岡ハス JV

外構実施設計 — (株)ホクスイ設計コンサル

テーマ

工業振興を支えた学舎の歴史の継承と創造性、個性豊かなエンジニアを育成する教育環境づくり。

設計の考え方

■力強さを強調した外観

縦のラインを強調し大地にしっかり根を下ろしたイメージのデザイン。力強さが威圧的にならないための外壁色彩計画。

■明快で機能的な平面計画

教室棟と産振棟との明快な分離。中庭を有効に活用した回遊型の動線計画。ゆったりとした幅員を持った片廊下タイプの普通教室。

■発寒鉄工団地の象徴としての学舎

ランドマークも兼ね地上30mに設置された鐘楼。



北海道 札幌東商業高等学校

所在地 — 札幌市厚別区厚別中央3条5丁目

構造・規模 — RC造4階建 11,388m²

完成年月日 — 平成12年12月18日

建築実施設計 — 創建社・建築総合研・教育施設 JV

設備実施設計 — 北洋・広瀬・基設計 JV

外構実施設計 — (株)田中進設計事務所

設計の考え方

■計画と設計について

改築のテーマは、「都市の中の学校と自然環境、また札幌東商業高等学校の伝統をふまえ、国際化に向けた新しい感覚を育てる教育環境づくり。」、この、二点を主題として、楽しく学校生活が営まれるよう、利用しやすく、開放的で、親しみがもてる施設となるよう計画しました。

■配置計画について

既存の自然環境の保護と調和を図るため既存樹木の有効活用をはかるとともに、高低差のある敷地の有効利用を考え、敷地の高い南側を校舎ゾーン、低い北側部分をグランドゾーンとしております。校舎棟は、敷地の有効利用の見地から東西方向に長く配置し、管理棟及び産振棟は、校舎棟東側に南北方向に配置しております。グランドへは、西側校舎棟一階のピロティをくぐり、出入りできる計画としました。グランドは、サッカーコート二面分の広さがあり、300メートルの陸上トラック、サッカーコート、野球場、ソフトボール場が整備されております。市道厚別東町73号線からのアプローチ道路は、緑豊かな散策路として整備し、学生の通学路としての利用のほか、平行する校舎棟のピロティと一体感のある憩いの場として利用できる計画としました。



北海道 札幌啓成高等学校

所在地 — 札幌市厚別区厚別東4条8丁目

構造・規模 — RC造3階建 10,051m²

完成年月日 — 平成15年2月10日

基本計画 — (株)創建社

建築実施設計 — 創建社・中山・道教育施設 JV

設備実施設計 — 北洋・道総合・ナウ JV

外構実施設計 — (株)田中進設計事務所

設計の考え方

野幌森林公園に隣接し、周辺が樹木に囲まれた敷地環境にある当施設は、自然に溶け込むような外観と、自然素材を使った外装、また既存樹木は限りなく残すことに配慮をして計画しました。

平面計画では、高等学校としては特色のある1足式を採用していることから、下足箱のない昇降口となっており、それと連続する吹き抜けのある玄関ホールとライトコートを核として、全校憩いの場かつ地域に開かれた空間となることを目指しています。また、特別教室棟は1階が生活系、2階が理数系、3階が芸術系となっており、その各階の中心に、特教メディアと称する自由学習ゾーンを配置したり、3階の芸術系教室前の廊下や、渡り廊下はトップライトで自然採光を採り入れた生徒達の作品展示ギャラリーとするなど、現代的かつ文化性の高い施設整備としております。内部仕上げとしては、床はフローリング張り、壁には合板や羽目板のクリア塗装仕上げを主とし、室名札も木製とするなど、木の素材を生かした内装計画としました。



北海道千歳高等学校

所在地—千歳市北栄1丁目

構造・規模—RC造4階建 12,295m²

完成年月日—平成12年1月18日

建築実施設計—道日建・ノース・大栗 JV

設備実施設計—協和・北総研 JV

外構実施設計—和光技研(株)

設計の考え方

■ 翔をイメージした正面玄関～空をゆく鳥あるいは航空機の翼をイメージした形態を外観に取り入れ、空の街千歳と、若人の躍動感を正面ファサードに表現しました。

■ 心の休まる交流空間～程よいスケール感をもった外壁で囲んだ中庭を創りました。風の遮たれた陽溜まり空間は生徒の憩い、語らいの場として用意されたものです。この半屋外空間は、今回の建替校舎の特徴のひとつです。

■ 樹林を意識した壁の色～外部の色彩は季節により変化する樹林の葉や、幹の色や冬の雪景色に映える様、暖かみの感じられる薄茶色を基調としました。この色は又、従前の校舎の色でもあり、50年の歴史を未来に引き継ごうとする思いを込めたものでもあります。

■ 将来を見越した全体配置計画～今回と同じ建替が将来起きた時、生徒の授業を継続しながら工事が出来る様、新旧校舎の位置を交互に変えた計画としました。



北海道 函館商業高等学校

所在地—函館市昭和1丁目

構造・規模—RC造4階建 10,548m²

完成年月日—平成13年1月19日

基本計画—(株)岩見田建築設計事務所

建築実施設計—岩見田・小南・ロゴス JV

設備実施設計—協栄・田中 JV

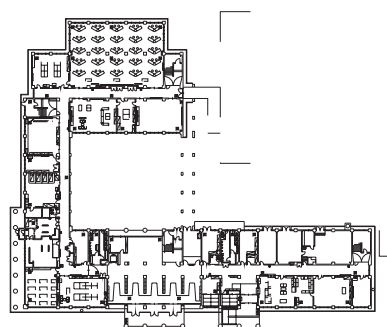
外構実施設計—(株)宅地開発研究所

設計の考え方

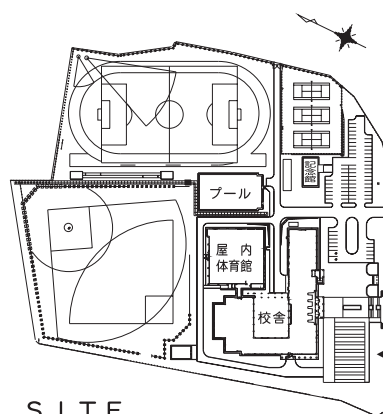
■函館の歴史豊かな伝統的建物をモチーフにデザインし未来への飛躍と発展を表現した。

■平面計画ではコンパクトにまとめ機能性を高める計画とした。2階以上を回廊型として自然光溢れる生徒ホール、ラウンジを設け潤い空間としている。

■中庭を設け五稜郭をモチーフした花壇は四季を感じ取れる生徒の憩いの場としている。



1F PLAN



SITE



北海道 小樽水産高等学校

所在地—小樽市若竹町9番1号
構造・規模—RC造5階建 4,474m²
完成年月日—平成14年10月10日
基本計画—(株)創建社
建築実施設計—創建社・山本・須崎 JV
設備実施設計—総合設備計画・真紀 JV
外構実施設計—(株)シーイー サービス

設計の考え方

■狭隘な敷地の有効活用を図る為、2～5階建の中層建物を主体としたコンパクトな建物形状とし、今回の改築にあたり購入された、敷地東側の市道に面する隣接民地をアプローチ前庭とし、安全でゆとりのあるスペースを確保している。また北側民地に対して校舎の幅の狭い側を配置し、実日影を3.0時間程度におさえている。

■平面計画では4.0mの敷地高低差を利用して、低い部分を1階、高い部分を2階とし、吹き抜け、光庭等で採光を確保しながら、敷地の高低差を感じさせない形態としている。

■外観デザインの構成については、小樽という地域的な特徴を持ちながら、水産高校という独自の建物性格を表現する計画としている。小樽らしさとしては、歴史的建造物のイメージを外壁の低層部の質感や、サッシ形状により表現し、水産高校らしさとしては船をイメージした斜壁、煙突、外装の1部分に金属板を使用し表現をしている。



北海道岩内高等学校

所在地 — 岩内郡岩内町宮園243

構造・規模 — RC造4階建 8,461m²

完成年月日 — 平成13年11月12日

基本計画 — (株)環境設計

建築実施設計 — 環境設計・二葉・高岡 JV

設備実施設計 — 協和・真紀 JV

外構実施設計 — 北海道土木設計(株)

設計の考え方

■限られた建物規模のなかで設定した中庭の積極的利用・多目的利用を考える。

中庭には敷地の高低差があり、これを逆に利用して、内部外部を貫く大きな階段を設定した。この大きな階段は中庭利用の主動線になっていると同時に、中庭空間に変化を与えている。階段には溜まりのスペースや腰掛けるスペースを設定し、日常の生徒利用を第一に考えるが、野外授業や野外集会も可能である。時には、野外コンサートなどの客席としても利用できる。

地域に開かれた学校として、生涯学習の拠点として、積極的・多目的に利用されることを願っている。



北海道 滝川工業高等学校

所在地—滝川市二の坂町西1丁目1-5

構造・規模—RC造4階建 11,527m²

完成年月日—平成11年12月10日

基本計画—(株)岩見田建築設計事務所

建築実施設計—岩見田・北星・アキバ JV

設備実施設計—道総合・田中 JV

外構実施設計—(株)ンビテック

設計の考え方

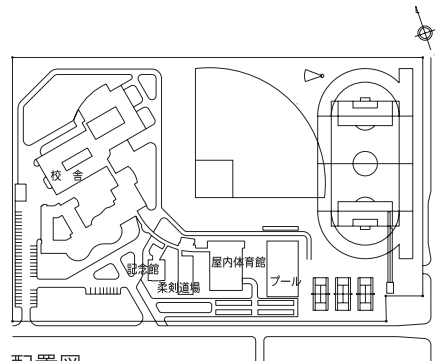
■力強さを協調した外観

滝川工業の歴史と伝統を踏まえ力強く大地に根付き、未来への飛躍と発展をイメージさせる外観とした。

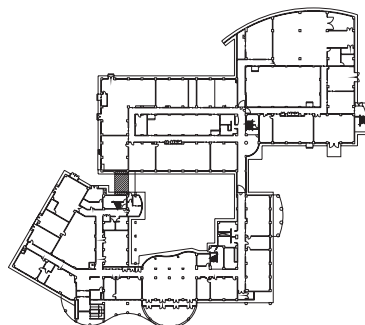
■平面計画

明るく快適な学舎造りから、自然の光を校舎の隅々まで取り入れる中庭、大小3つのライトコートを軸として各ブロックを計画した。

校舎中央の中庭は生徒の語らいの場、憩いの場として生徒ホールと一体として計画、中庭のオブジェは校歌の歌詞から生徒達が虹色に輝く2枚の翼で未来に向かって羽ばたこうとしている姿を表現している。



配置図



1階平面図